

森田龍僊著作集

— 没後50年記念出版 —

— 新しい視野からみた森田教学 —



全10巻

高野山真言宗管長
総本山金剛峯寺座主

稲葉義猛

森田龍僊先生は私が昭和八年高野山大学予科から密教学科に進んだ頃、教授として学生の指導に当たっておられた。同学科の学生たちは碩学としての先生の講義に大きな憧れと期待を以て競うて受講した。特に先生の最も得意とせられた釈摩訶衍論の講義は順次何年も続いたので、連続して受講する学生もいた。先生は教壇の上をゆつくりと左右に異動しながら瞑想するようなお姿で諄々と講述された。当時の学生たちは先生方の講義を大学ノートに懸命に筆記する習わしであった。森田先生の釈論の講義は一見難しいように思われたが、筆記が取り易く講義が終ってノートを読み返してみると、理路整然として述べられた内容は学生たちにも良く理解し会得できるものであった。密教星宿観についても同様であった。ノートは今も手許に大切に保存している。

今回、先生の著作集が一括上梓されることは宗学発展のため誠に嬉しいことである。日光院森田光順師はじめ関係各位の御労苦に感謝すると共に、宗内外各位の机辺に是非とも備えられることを願ひ、御推薦申し上げます。

高野山大学学長

和多秀乘

明治時代から昭和時代の三代にかけて、真言宗を代表する碩学といえ、まず、金山穆韶、森田龍僊両先生を挙げねばならない。

まことに遺憾千萬であるが、私は、森田先生の馨咳に接する機会に恵まれない。今もつて残念でならない。というのは、私が、日本密教史や高野山史に関心をもつようになつて、森田先生の諸著書を読む度に気付いたことは、他家所蔵の古文書等を除いて、当時現存する諸資料で、利用し得るものは博搜されて殆んど遺漏がないほどで、これは、資料の利用、公開ということが常識化された現在の研究者とは比較にならない程の努力の積み重ねの結果と拝察される。

勿論、資料の解釈や評価については、現在の学問と大きく懸隔するところであるが、先生が、あくまで護法、護教に徹する強い精神の持ち主であったがために他ならず、寧ろ、資料の存在、着想等に教えられる点が多量に多いといわねばならない。

現代の宗学、宗史学の確立という目標達成のためにも、通過すべき関門として、宗内外を問わず、斯学に関心をもつ人の必読の書として強く推薦する次第である。

智山伝法院院長
名古屋大学名誉教授

宮坂宥勝

この度、『森田龍僊著作集』全十巻が刊行されることになったのは、同学の末葉として慶賀に堪えない次第である。

師は、金山穆韶、梅尾祥雲の両巨匠とともに高野山の三羽鳥と称せられた一代の学匠である。高野山大学林より高野山大学まで多年に亘つて教授を勤められ、幾多俊秀の教育を手掛けられるとともに伝統教学を継承して森田学ともいふべき真言教学の学的研究成果を世に問われた。

なかんずく、『釋摩訶衍論之研究』『密教占星法』あるいは『高野の三大宝』などは密教研究の分野における輝かしい金字塔であつて、今なお私達後進の指南となつているものばかりである。

希観の著書や論文を組織的に集成した著作集は、森田学の全容を窺うに相応しいものである。

密教の何たるかを学び、伝統教学を再確認するために不可欠な著作集を広く現今の学界、読書界に推薦する。

多数のご協賛を願つてやまない。

高野山専修学院院長
大本山宝寿院門主

和田有玄

今般、「森田龍僊著作集 全十巻」が刊行されますことは、まことに時機を得た企画といわなければなりません。

龍僊和尚は、多年高野山大学教授として伝統教学を継承した学僧で事相と教相の両面で活躍されました。

和尚は現在の交野市星田の森田家に生を享けられ、古稀の歳、高野山宝壽院に示寂されました。その間、呱呱の声をあげられた星田村と、はじめて晋住の但馬日光院が妙見菩薩の靈蹟であつたことから、その宿縁の深さを感じて、密教の占星法を研究、編纂されたのであります。これは偏に事教二相に精妙でなければ出来ない業績であり、和尚でなければ出来ない生涯の書でもあつたわけであり、熟読、実習を庶幾うものであります。

又釋摩訶衍論之研究、弘法大師の入定観等はゆつくりと時間をかけて味得すべきものであります。



全巻の構成

教相篇

◆第一卷

『秘密佛教の研究』(校訂朱筆入)

『活ける弘法大師』(校訂朱筆入)

◆第二卷

『真言密教の本質』

◆第三卷

『密教占星法(上)』

◆第四卷

『密教占星法(下)』

『密教占星法(付録)』

◆第五卷

『弘法大師の入定観』

『高祖大師観』



◆第六卷

『釋摩訶衍論之研究』

◆第七卷

『教相論集』

観音經普門品講義／密教の浄土観／真言陀羅尼の研究／両部大經の内容／御入定大事の研究／入定と入滅との同異／小乗の睡夢観 ほか8篇

事相篇

◆第八卷

『大元帥法』

『南山瞑想録』

◆第九卷

『即身成仏の観行』

『高野の三大宝』

人物篇

◆第十卷

『高野山第二世伝燈国師伝』

『論集』

智泉大徳伝／長覚尊師の学説／鼎龍暁大和尚の伝記／森田龍僊自叙伝 ほか5篇

付録『師の思い出』

森田龍僊

略年譜

- 明治11年(0歳) 8月8日生、大阪府河内国北河内郡星田村(現交野市星田)。
- 明治16年(5歳) 尋常小学校入学。
- 明治23年(13歳) 京都善永寺衆徒となり尋常中学入学。
- 明治25年(15歳) 東寺観智院にて鼎龍暁和上を戒師として得度。
- 明治27年(17歳) 高野山中学林入学。
- 明治29年(19歳) 高野山大学林入学。
- 明治32年(22歳) 高野山大学林教師に就任。
- 明治38年(28歳) 但馬・日光院住職拜命。
- 大正4年(38歳) 高野山大学教授就任。
- 大正8年(42歳) 学匠位授与。
- 大正10年(44歳) 高野山準別格本山釋迦文院住職拜命。
- 昭和4年(52歳) 『弘法大師の入定観』を著す。
- 昭和5年(53歳) 『秘密仏教の研究』を著す。碩学位。
- 昭和6年(54歳) 『南山瞑想録』を著す。
- 昭和10年(58歳) 『釋摩訶衍論之研究』を著す。権大僧正。
- 昭和12年(60歳) 高野山大学を辞し、釋迦文院を中西龍淵に托す。
- 昭和13年(61歳) 高野山第443世検校法印。
- 昭和16年(64歳) 金剛峯寺耆宿拜命。
- 昭和17年(65歳) 高野山第443世検校法印。
- 昭和18年(66歳) 東寺御修法出仕。
- 昭和19年(67歳) 『高野之三大宝』を著す。
- 昭和23年(71歳) 前官、大僧正、宿老。4月9日、遷化。

'98年11月刊行開始

以後 隔月1冊
10回配本

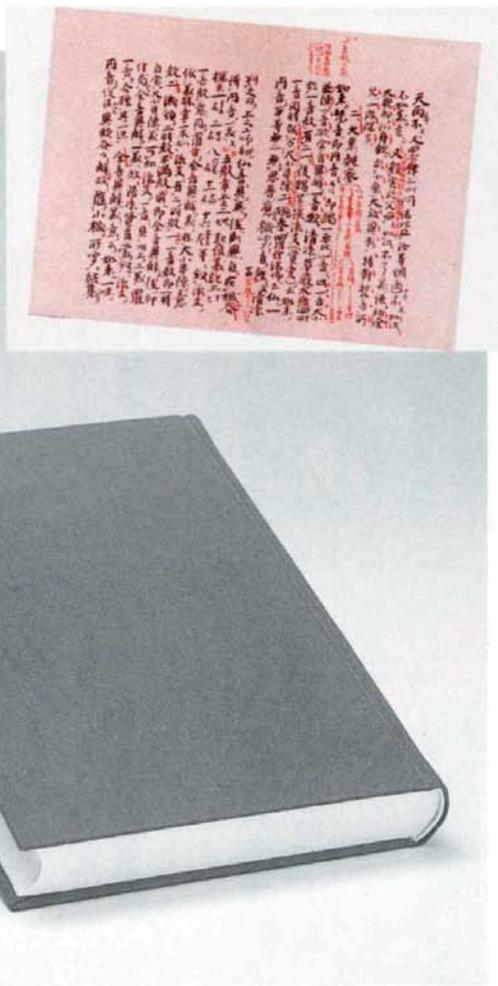
第1回配本

第一卷 『秘密仏教の研究』

『活ける弘法大師』

(校訂朱筆入原稿)

(校訂朱筆入原稿)



※写真はイメージですので実物とは異なります。

◆本書の特長◆

- 著者自筆(第1・2巻)による校訂朱筆入原稿をそのまま影印した。
- 教相篇・事相篇・人物篇に分類した。
- 今日では、入手不能な絶版本及び雑誌文献を収録した。
- 表記は、発表当時の雰囲気と姿をそのまま伝えるように工夫した。
- 当著作集では、部分的に解説を付し、その現代的意義を明らかにした。
- 最終巻に、年譜・著作目録を付した。

◆付録／『師の思い出』

《執筆者》 森田光順(但馬・日光院)、水田龍章(橋本市・大高能寺)
中西啓寶(高野山・釋迦文院)、高松龍暉(但馬・日隆寺)

■ 解説／宮坂宥勝(智山伝法院院長・名古屋大学名誉教授)

日野西真定(奥之院維那)、その他

■ 監修／森田光順(但馬・日光院52世)、中西啓寶(高野山釋迦文院53世)

■ 編集／日野西真定(奥之院維那)、森田龍親(但馬・日光院)

■ 造本・体裁／A5判・上製・布製・貼函入

総頁数5,012頁・各巻平均500頁

予約申込み締切——平成10年11月末日

予約特別価格(税込)——定価128,000円のところ

68,000円(第一回配本時一括払い)

110,000円(各巻11,000円×10回配本払い)

発売元「うしお書店」へ同封の申込ハガキに必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。(切手不要)

※全巻予約出版のため一般書店では取り扱っておりません。
※分売不可 ※送料当社負担

発売 うしお書店

〒九四九一四三五一

新潟県三島郡出雲崎町大門一六四一七

電話 〇二五八―七八―二二五五番

FAX 〇二五八―七八―四二四三番